

広報クリニック ＜書体編＞

▼MSゴシック

愛情あふれるステキな書体ABCD

＜ゴシック体の特徴＞ イメージ=力強さ、信頼感

- 線の太さが均一のため、明朝体に比べてインパクトがある。(可視性に優れる)
- 見出しや簡潔に要点を伝える文章に使われることが多い。
- ある程度小さな文字でも読みやすいため、雑誌の本文や注釈などに使われやすい。

書体=ひらがな、カタカナ、漢字、欧文の種類があります。すべて揃う書体もあれば(MSゴシックなど)、ひらがなのみの書体もあります。用途によって使い分けると便利です。

▼MS明朝

愛情あふれるステキな書体ABCD

＜明朝体の特徴＞ イメージ=繊細さ、高級感

- 強弱があるため文字の形を判別しやすく、正確に読めるため、疲れを感じにくい。(可読性に優れる)
- 横線が細いため、軽やかで明るい印象になりやすい。長めの文章に使いやすい。
- 文字が小さくなると線の細さのため、文字が判別しづらくなる。



「自立支援」とは、 「依存を生まない支援」

今回の記事に出てきた「協働」や「支え合い」など、「相互に協力し合う」取り組みは、どちらの理念もお互いが自律・自立した存在であって初めて成立することになります。ここでいう自律は「自らの意志によって行動できること」であり、自立は「他者に依存や従属をせず、または支配を受けないこと」を意味します。

ここで自立の意味を「他者の世話にならない、頼らないこと」だと解釈してしまうと、多くの人から

の支援を必要とする NPO やボランティア団体は、自主運営が不可能になります。つまり自立においては、他者の世話になる、頼ること自体が悪いのではなく、世話のなり方や頼り方が問われている、ということになります。

例えば、特定の人や組織に対する過度な依存や、自己で責任を負う場面での他者への転嫁は、自立した状態とは言えないでしょう。

まちづくり支援室の「支援」とは、自律・自立支援のことですが、今後もこの姿勢を大切にしていきたいと思います。

まちづくり支援室は、住民活動を支援し、志免町と町民の皆さんで協働したまちづくりをすすめるために設置された施設です。専門のコーディネーターを配置し、NPO やボランティアに関する情報を発信するとともに住民活動に関する相談やアドバイスをしています。



▼支援室職員紹介

うめざわ あやこ
●梅澤 綾子



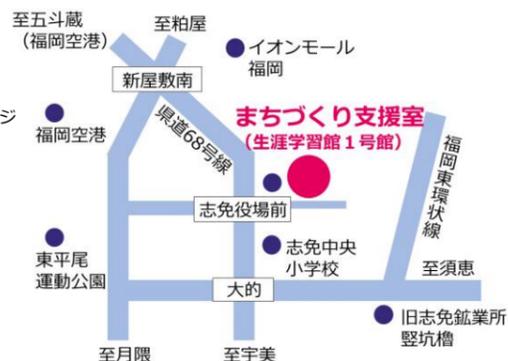
6月から、まちづくり支援室常勤職員として勤務しております。皆さんよろしくお願いいたします。
▼好きなこと うさぎと遊ぶ(名前はまるです)

★次号＜Vol.20＞は2018年12月発行予定です。

- 発行 志免町まちづくり支援室
- 発行日 平成30年(2018年)9月30日
- 編集 NPO法人ミディエイド
- 住所 〒811-2244 福岡県糟屋郡志免町志免中央1-3-2(生涯学習1号館内)
- TEL 092-936-8626
- FAX 092-936-8626
- E-mail collabo@town.shime.fukuoka.jp
- 開室時間 9:00~17:00(火曜・木曜・土曜)
9:00~21:00(水曜・金曜)



▲公式ホームページ



The 志免町 まちづくり 支援室 2018.9.30

Vol.19

＜本号の内容＞

- 【支援室レポート】協働事業報告会
- 【取り組み紹介】課題を知る
- 【団体活動情報】ネットワーク作り
- 【広報クリニック】書体の特徴



【支援室レポート】協働事業報告会 ～町内での協働の取り組みを知る～

平成30年7月19日、平成29年度の協働事業報告会が町主催で開催されました。当日は志免町内外から38人の参加があったほか、世利町長も出席し、報告に耳を傾けました。

▼団体代表と町職員が共に登壇

まず、NPO法人ウエルフェアだんだんと福祉課が、認知症の本人や家族が安心して地域で暮らせる環境づくりを目指して、認知症の理解促進とカフェを運営する人材の育成に取り組む「認知症カフェが志免の各地域にできたらいいな！事業」を報告しました。

協働事業提案制度を活用した事業で、町が地域から収集したニーズをもとに、ノウハウを持っている団体が人材の発掘と育成に取り組むなど、両者の専門性を活かした役割分担で実施した結果、町内の認知症カフェで人材が継続して活躍しています。

続いて、志免マルシェとまちの魅力推進課、福岡県男女共同参画センターあすばるの3者協働で、女性の活躍によるまちの活性化を図る取り組み「福岡県女性による元気な地域づくり応援講座事業」も報告されました。その後、協働事業の評価を行う住民参画推進委員会による質疑が行われました。

▼報告会におけるまちづくり支援室の役割

協働事業提案制度における団体と町のあいだの調整役(コーディネーター)を担っています。その一環で、報告会の企画運営を担当しており、協働の基礎解説や住民参画推進委員による質疑応答の進行、報告資料作成のサポートなども行っています。

▼協働で人材を育成する意義

報告会の最後に、住民参画推進委員会の十時委員長による講評があり、協働による人材育成の必要性について言及がありました。

人材育成に関して、様々な研修や講座が実施されていますが、受講後のフォローを含むプログラムが少なく、育成した成果が活かされないことがあります。

今回報告された事業からは、人材育成の成果を出す方法として、その専門性やノウハウを持つ組織との協働が重要であることが見えました。

